

## 文字の運びと流れ

萩原 義雄

## カタカナ表記資料について

カタカナを用いることは、漢文訓読のときに起因していることを既に学習してきました。今回は、漢文の傍らに添えられるカタカナ表記、すなわち漢文訓読のカタカナ文字から、れっきとした本文の表記体として用いられるようになった文献資料を許に検討をしていくことにします。

まず、本文をカタカナ書きとした文献資料の一つを眺望しておきましょう。

宮内庁書陵部蔵『古今和歌集』舊伏見宮舊藏、建永元年(一一〇六)書写本。清輔本系注記「以貫之自筆本書寫古今也。件本、於皇太后宮焼失畢云々。和歌等不似餘本其説頗遠矣。通宗」を記載する)

用語数二〇七二語、延べ語数一八〇八八語

仮名序「…トヨリソ、オコリケル。チハヤフル神ヨニハ、ウタハモシモサタマラス、ス、ナホニテ、コトノコ、ロワキカタカリケラシ。人ノヨトナリテヨリソ、スサノヲノミコトヨリソ、ミソモシアマリ、ヒトモシハヨミケル。《略》ナニハツニサクヤコノハナフユモリ、イマハ、ルヘトサクヤコノハナ《下略》」

とある資料です。

ここでは、歌の本文内容はともかくとして、歌作者名の書記法について考察してみますと、その多くが「ツラユキ」「モトカタ」「トモノリ」「ミツネ」「タ、ミネ」「シロメ」などと名前だけをすべてカタカナ書きしたものと、「キセンホフシ」「ソセイホウシ」「シセイホウシ」「ケムケイホウシ」などの僧名にもすべてカタカナ書きしたものが見られます。

「フムヤノアサヤス」「キノヨシモチ」「アリハラノモトカタ」「サカノウヘノコレノリ」「タヒラノサタフム」「フチハラノセキヲ」「カネミノオホキミ」「キヨハラノフカヤフ」「ハルミチノツラキ」「キノツラユキ」「キノアキミネ」「キノコレヲカ」「キノトシサタ」「イカコノアツユキ」「ナニハノヨロツヲ」「ヨシミネノヒテヲカ」「フチハラノカネモチ」「タヒラノトモノリ」「キノアリツネ」「ヤタヘノナサネ」「フムヤノヤスヒテ」「タカムコノトシハル」「ミナモトノホトコス」「ミヤコノヨシカ」「ヲノ、ヨシキ」「ミハルノアリスケ」「タチハナノキヨキ」「シモツケノフムネ」「オホトモノクロヌシ」「コレタカノミコ」「フルノイマミチ」「モノ、ヘノヨシナ」「サタノ、ホル」「カネミノオホキミ」「ヲノ、サタキ」「カケノリノオホキミ」「カムツネノミネヲ」「ミハルノアリスケ」「ヲノ、ハルカセ」「フムヤノアリスケ」「キノヨシヒト」「タヒラノナカキ」や女性の歌作者名も「ミフノマシナリカムスメ」「イセ」「コマチカアネ」「イナハ」「ミチノク」「キノメノト」

などと凡てがカタカナで書かれている作者名が大半を占めています。

そうしたなか、漢字表記で書かれた名前もあります。次に挙げる「僧正遍照」は、僧職名の「僧正」を漢字で書き、僧名の「へせう」をカタカナで、二種表記した書きぶりを見るのができます。

「僧正遍照」「僧正へせう」「へせう」の三表記

394

392

330 「清原深養父」

清原深養父

859 577

大江千サト

467

大江千里

「大江千里」

1016 847

僧正通照

831 770

僧正通照  
二ノ儿  
僧都勝運

468 348 347

僧正通照

書詞

967

中ヨウラクカヤフ

581

中ヨウラクカヤフ

378

フカヤフ

1021

フカヤフ

998 643

オチエノ千サト

1065

千サト

オチエノ千サト

大エノ千里

435

僧正のせう



455 「兵衛」↓「惟房がもとにかへりける」「藤原たかつね朝臣女」  
兵衛 タケノサカキモト  
ニツリを

740 「閑院」  
用院  
837  
用院

789  
兵衛 藤原ノタカ子  
朝リノムスメ

「読人不知」※御本人名皆假名也 ↓多くは「ヨミ人シラス」と記載する。この他として、漢字表記とカタカナ表記で記載する例を見る。

469 読人不知 御本人名  
皆假名也

940 読人不知

933 読人不知

1037 ヲミヒトシラス

1052 ヲミヒトシラス

1057 ヲミヒトシラス

1001 読人不知 同上假名也  
910 読人不知  
647 読人不知

1063 ヲミヒトシラス

1066 ヲミヒトシラス

1068 ヲミヒトシラス

1043 ヲミ人シラス

また、姓と官職名を漢字表記し、名前をカタカナで表記するものもあります。  
「在原業平」

在原ノナリモウ

アリノナリモウ

410 在原ノナリヒラノ朝

476 在原ナリヒラノ朝

616 在原ナリヒラノ朝

418 ナリヒラノ朝

618 ナリヒラノ朝

622 ナリヒラノ朝

642 ナリヒラノ朝

ナリヒラノ朝

329 「凡河内躬恒」※「ヲフシカウチノミツネ」と「オフシカウチノミツネ」と両用表記。

凡河内三子

481

シラカウチノ三子

788 源ノム子ノ朝

624 源ノム子ノ朝

315 「源宗子」 源ノム子ノ朝

801

ム子ノ朝

212 「藤原管根」 藤原ノム子ノ朝

1100 1013

藤原ノム子ノ朝  
藤原ノム子ノ朝

「藤原敏行」 藤原ノム子ノ朝

617 藤原ノム子ノ朝

558 藤原ノム子ノ朝

422 藤原ノム子ノ朝

012 「源正純」 源ノム子ノ朝

010 「藤原言直」 藤原ノム子ノ朝

969 源ノム子ノ朝

785 ナリヒラ朝

646 ナリヒラ朝

1014 391

藤原ノカ子スネ

藤原ノカ子スネ

「藤原兼輔」

364

オウシノ原ノカ子スネ

「典侍藤原ヨルカ」

※官職名「典侍」をカタカナ表記し、姓「藤原」を漢字表記し、名前をカタカナ表記する。

オウシノ原ノカ子スネ

736

355

在原ノシケル

「在原シゲハル」また、「トキハル」

372

在原ノシケル

610

春ミチノコトキ

341

春ミチノコトキ

「春道列樹」

335

小野ノカ子スネ

「小野篁」

829

シノノカ子スネ

840

凡河内ミコ子

956

凡河内ミコ子

750

凡河内ミコ子

636

凡河内ミコ子

1015

オウシノ原ノカ子スネ

382

凡河内ミコ子

1005

オウシノ原ノカ子スネ

417

961

ワカコノ原

936

シノノカ子スネ

845

ワカコノ原

393 「幽仙」※「律師」の表記を促音無表記で「リシ」と記載する。

395 くら仙りし

「安倍仲麻呂」

406 女倍十力丁口

※訓みかただが、「あべなまろ」と準体助詞の「下に表記しない体裁であるが、読むときは「あべのなまろ」と読む。

「藤原勝臣」

472 藤原カチオム

999

藤原ノカチオム

「藤原忠房」

576 藤原ノタマフ丹

914

藤原ノタマフ丹

993

藤原ノタマフ丹

638

藤原ノタマフ丹

「近院おほいまうちきみ」

737 近院分まゝらキキニ

848

近院右分まゝらキキニ

「雲林院ノミヨ」

781 雲林院ノミヨ

「藤原なほい」

807 ナホシケノミヨ

「尼敬信」↓「よるか朝臣の母」

885 阿二敬信

「在原行平」

922 在原ノミヨ

962

在原ノミヨ

「神タイ法師」

925 神タリオウシ

927 藤原ノオキカゼ  
[橘]

930 三條の町 ↓ 惟喬皇子の母  
三條ノニチ  
ミツノカ

932 坂上是則  
坂上ノオキカゼ

986 二条 ↓ 源ノイタルノ朝臣ノムスメ  
二条ノオキカゼ  
源ノイタルノ朝臣

「在原むねやな」

1020 在原ノムネヤナ

これとは反対に姓をカタカナ表記し、名前を漢字表記する「フチハラノ興風」といった表記もあります。「興風」は、他に「オキ風」「オキカゼ」「興風」といった表記も見えています。また、「キ」のカタカナ表記には、「キ」と「ノ」の両用表記が見えています。姓名で表記する場合、「藤原オキカゼ」と記載するのと「藤原ノオキカゼ」と準体助詞「の」を添える表記とが見えています。「オキカゼ」の「かぜ」を「風」と漢字表記する例も見えています。

「藤原興風」

フチハラノ興風

326 藤原オキカゼ

351 藤原オキカゼ

567 藤原オキカゼ

814 藤原オキカゼ

909 藤原オキカゼ

オキカゼ

オキ風

745 オキ風

オキカゼ



1053 藤原千代

1064 興川

女房名はおおよそ、カタカナで表記され、その下に割書きにて素性を父方の名を以て記載する。

「クソ」↓「源のつくるが女」

クソ源ノツルガム

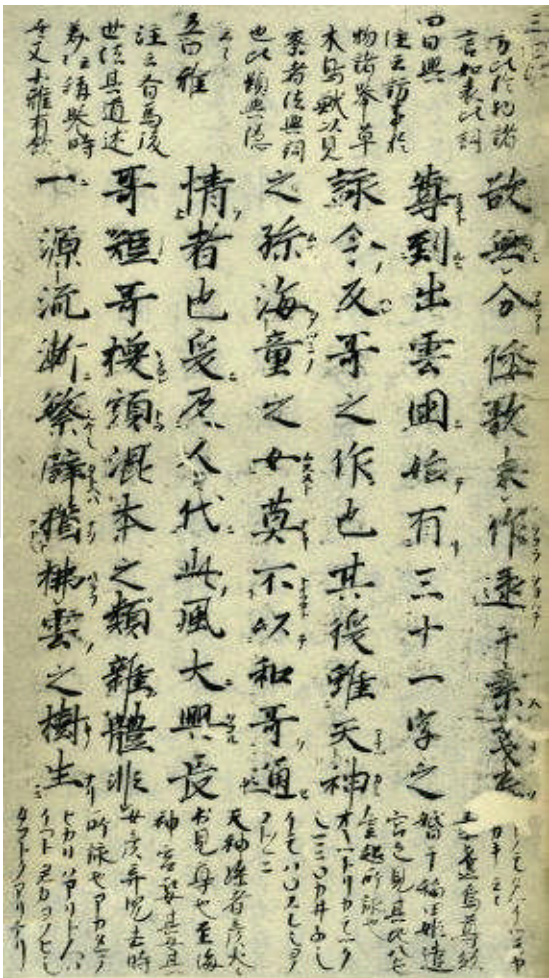
1055 「さぬき」↓「安倍清行朝臣女」

サヌキ 安倍清行朝臣女

1056 「大輔」↓「源のタスクが女」

オホノタスクガム

以上、カタカナ本『古今和歌集』作者名の表記事例を眺めてきました。この和歌集には、紀淑望の作「真名序」があり、漢字の傍らに添えるカタカナ表記を確認することができます。三葉めの箇所を取り上げておきます。是非、お読みになってください。



この資料には、天地に書き込み注記がなされ、この箇所を丹念に読むことで、『古今和歌集』がどのような資料と関連しているのかわかり得ます。因みに、書込の典拠名をメモしてみます。『古語拾遺』『日本皇代記』『万葉集』『拾遺集』『大和物語』『猿丸集』『三十六人集』『金玉集』『深忘集』『伊勢物語』『新撰朗詠集』『素性集』『興風集』『家持集』『躬恒集』『朗詠集江注』『人丸集』『貫之集』『菅家万葉集』『千里集』

『重之集』『伊勢集』『大内記』『醍醐御集』『後撰集』『遍照集』『兼輔集』『江家次第』『敏行集』『藤六輔集』『神樂譜』など。

※顕昭本『古今和歌集』(旧伏見宮家蔵・現宮内庁書陵部蔵)のカタカナ表記本で、識語に拠れば、紀貫之自筆本を以て書写され、古くは花山院が所蔵し、紀貫之自筆本は既に焼失という。

【参考HP資料】<http://homepage3.nifty.com/keijunno/b/b-07kensyo.html>

[http://opac1.aichi-pu.ac.jp/kicho/books-outline/9112\\_1-35\\_1483.html](http://opac1.aichi-pu.ac.jp/kicho/books-outline/9112_1-35_1483.html)

『古今和歌集』諸本七十種

- 1 筋切。2 元永本。3 唐紙卷子本。4 通切。5 大江切。6 雅經筆本崇徳天皇御本。7 今城切。
- 8 教長注古今集。9 黒川本(志香須賀文庫蔵)。10 六条家本。11 寛親本。12 家長本(永治二年清輔本)。13 前田家本(保元二年清輔本)。14 保久邇文庫本(保元二年清輔本)。15 天理図書館本(顯昭本)。
- 16 伏見宮本(顯昭本)。17 静嘉堂文庫本(片仮名本)。18 伝後鳥羽院天皇宸筆本。19 土肥家本。20 池田家本。21 基俊本(ノートルダム清心女子大学蔵黒川本の校異)。22 寂恵使用俊成本(寂恵本の校異)。23 書陵部蔵永暦二年俊成本。24 伝寂蓮筆本。25 建久二年俊成本。26 昭和切。27 了佐切。28 顕広切。29 御家切。30 右衛門切。31 伊達家本。32 雅俗山荘本。33 志香須賀文庫本。34 静嘉堂文庫蔵為相本。35 道家本(刊本)。36 静嘉堂文庫蔵為家本。37 関戸本。38 曼珠院本。39 本阿弥切。40 高野切。41 龜山切。42 寸松庵色紙。43 公任切。44 唐紙色紙。45 久海切。46 民部卿切。47 継色紙。48 伝定頼筆下絵切。49 堺切。50 経裏切。51 中山切。52 陽明家本仮名序。53 荒木切。54 私稿本。55 高野辰之博士本。56 保坂氏本。57 毘沙門堂註本。58 真田本。59 佐々木博士本。60 嘉禄本。61 顯昭注。62 千蔭古本。63 坊門切。64 書陵部蔵頓阿本。65 伝定頼筆帯木本。66 伝家隆筆切。67 伝清輔筆切。68 筑後切。69 伝兼実筆切。70 本朝文粹(真名序のみ)

**顯昭本は**、現行にて既に翻刻され、活字化されている『古今和歌集』本文の歌語とは、異なる語を多分に有して、この語異同がどのようになされているのかを知りこれを究明することで本邦初の勅撰集なるものが編纂されてきた過程を精査分析するうえで尤も貴重な書写文献作品資料と言えよう。